

2017年2月期 第3四半期 (2016年3月1日～2016年11月30日)

決算説明資料



©2017「恋妻家宮本」製作委員会

2017年1月16日



東宝株式会社

阪急阪神東宝グループ

2017年2月期 第3四半期 営業概況

	2016年2月期 (2015年3月～11月)	2017年2月期 (2016年3月～11月)	前年同四半期比	増減率
営業収入	175,029百万円	178,120 百万円	3,090百万円	1.8%
営業利益	32,209百万円	41,468 百万円	9,259百万円	28.7%
経常利益	33,693百万円	42,528 百万円	8,834百万円	26.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	20,878百万円	28,161 百万円	7,283百万円	34.9%

【第3四半期の営業概況】

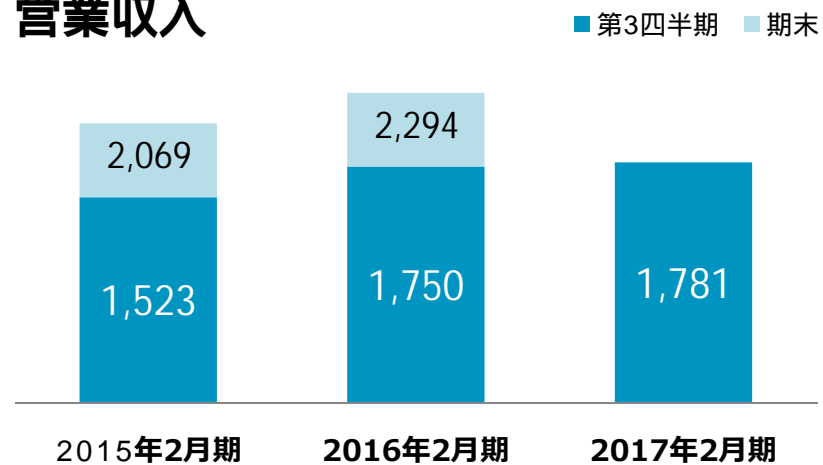
当四半期は、7月29日公開『シン・ゴジラ』が実写 1ヒット、8月26日公開『君の名は。』が邦画歴代2位となるメガヒットとなり、続映中。この当社製作2作品の好成績が映画事業（映画営業事業・映画興行事業・映像事業）の増収増益及び全社の業績を大きく牽引。

演劇事業は、各公演が盛況となるも、好調だった前期に及ばず減収減益。不動産事業は空室率も低く堅調に推移し、増収増益。

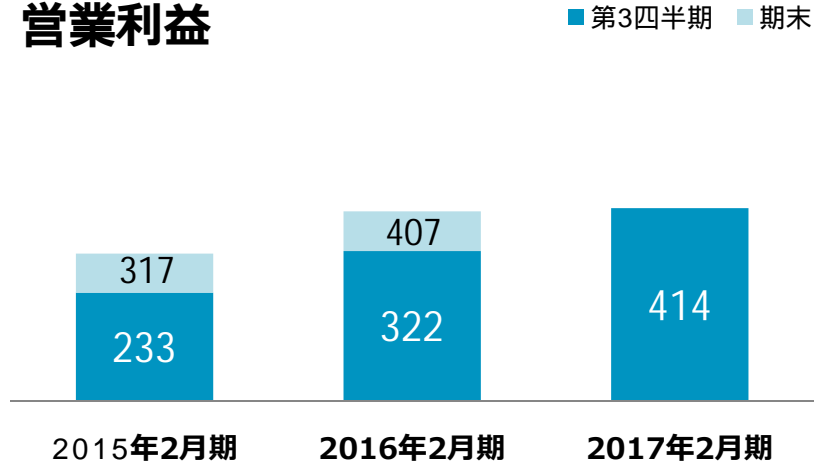
その結果、第3四半期決算としては「営業収入」「営業利益」「経常利益」「親会社株主に帰属する四半期純利益」の各段階で過去最高を達成。

営業概況3カ年比較

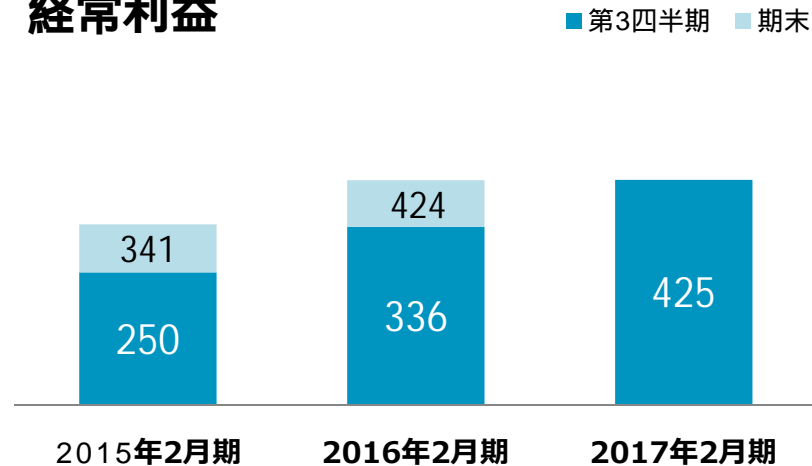
営業収入



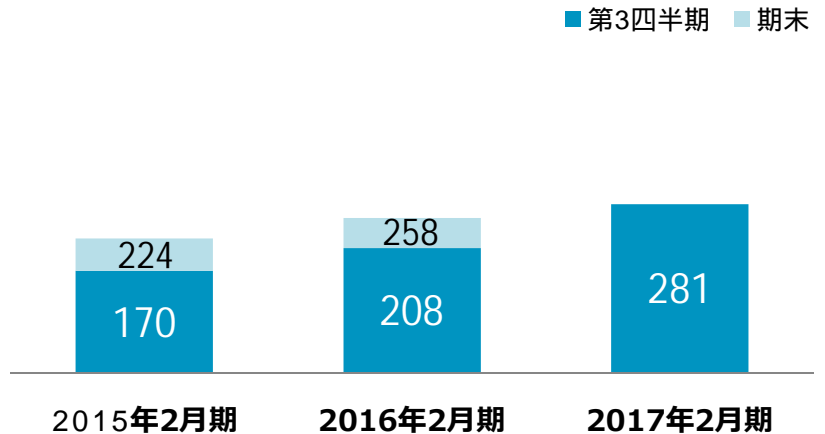
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益



(単位: 億円)

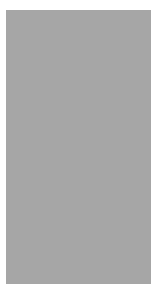
セグメント別業績一覧

	営業収入 (単位:百万円)			営業利益 (単位:百万円)		
	2016年2月期 (2015年3月~11月)	2017年2月期 (2016年3月~11月)	増減率(%)	2016年2月期 (2015年3月~11月)	2017年2月期 (2016年3月~11月)	増減率(%)
映画事業	116,778	119,810	2.6%	21,126	28,857	36.6%
映画営業	40,425	37,214	-7.9%	9,523	13,112	37.7%
映画興行	55,411	60,634	9.4%	7,614	9,760	28.2%
映像事業	20,940	21,961	4.9%	3,988	5,985	50.0%
演劇事業	11,444	10,745	-6.1%	2,608	2,179	-16.4%
不動産事業	46,070	46,852	1.7%	11,044	12,935	17.1%
不動産賃貸	24,002	24,149	0.6%	8,795	10,348	17.7%
道路事業	14,853	15,383	3.6%	1,563	1,898	21.4%
不動産保守・管理	7,214	7,319	1.5%	685	688	0.4%
その他事業	737	711	-3.4%	58	82	40.7%

セグメント別業績【映画事業】

営業収入

116,778



2016年2月期（2015年3月～11月）

119,810



2017年2月期（2016年3月～11月）

営業利益

21,126



2016年2月期（2015年3月～11月）

28,857



2017年2月期（2016年3月～11月）

（単位：百万円）

業績分析（増減要因）

当社幹事作品『君の名は。』が興行収入230億円を超え、日本映画歴代2位となる記録的な大ヒットを継続中。また東宝東和等配給の洋画作品は『ジェイソン・ボーン』が興行収入15億円を超えるヒットとなり堅調に推移したものの、前年の『ジュラシック・ワールド』等の大ヒットには及ばず、映画営業事業は減収となるも当社幹事作品のヒットが貢献して大幅な増益。

映画興行事業は、当社グループ配給作品のほか『デスノート Light up the NEW world』『ファンタスティック・ビーストと魔法使いの旅』（ワーナー・ブラザーズ）等のヒットにより好調に推移し増収増益を確保。

映像事業は、ODS事業では『闇金ウシジマくん Part 3 / ザ・ファイナル』が前作を上回るヒットを記録。パッケージ事業ではテレビアニメ『刀剣乱舞-花丸-』のサントラCD販売が好調。『君の名は。』等のアニメ制作事業が引き続き好調に推移し、パンフレットの売り上げも大きく伸ばし、増収増益。

映画 - 第3四半期 稼働作品 -

当社配給作品 興行成績ベスト3

作品名	公開月	興行収入
『怒り』	2016年9月	15.6億円
『四月は君の嘘』	2016年9月	13.8億円
『何者』	2016年10月	10.5億円

興行収入は2016年12月末時点

日本歴代興行収入ランキング ベスト5

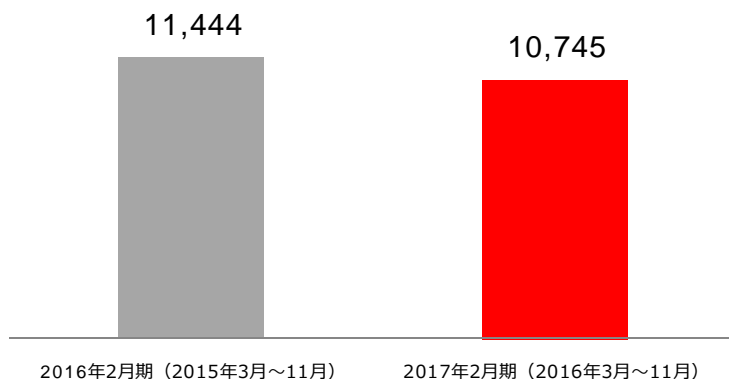
	作品名	配給	公開	興行収入
1	『千と千尋の神隠し』	東宝	2001年7月	308.0億円
2	『タイタニック』	20世紀FOX	1997年12月	262.0億円
3	『アナと雪の女王』	ウォルト・ディズニー	2014年3月	254.8億円
4	『君の名は。』	東宝	2016年8月	232.2億円
5	『ハリー・ポッターと賢者の石』	ワーナー・ブラザーズ	2001年11月	203.0億円

興行収入は2017年1月16日時点

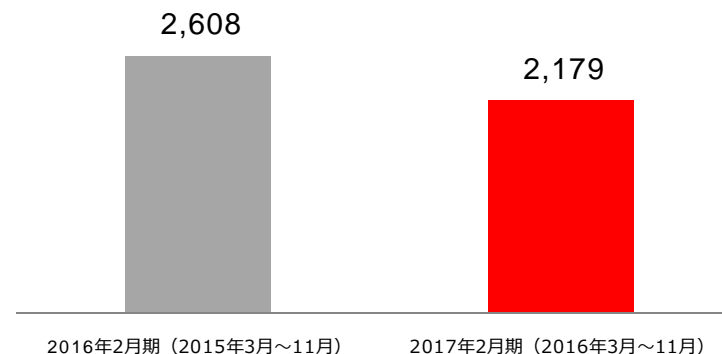
業績を大きく牽引している『君の名は。』は上記の通り、日本歴代ランキングでも4位、邦画歴代ランキングでも『千と千尋の神隠し』に次ぐ2位につけ、さらなる記録を伸ばすべくロングランを続けています。
また中国、韓国などのアジアでも人気を博し、世界125の国と地域での海外配給も決定しており、『君の名は。』旋風は止まるところを知りません。

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

帝国劇場では『DREAM BOYS』（9月公演）が全日程完売公演となる大盛況、エンジニア役の市村正親のファイナルステージとなる『ミス・サイゴン』（10月～11月公演）が大入り。

シアタークリエでは『縁（えん）～むかしなじみ～』（9月公演）が完売公演となり、『一人二役～殺したいほどジューテム～』（10月～11月公演）が堅調、『貴婦人の訪問 THE VISIT』（11月公演）も好調に推移。

その他、日生劇場での『ABC座2016 株式会社応援屋!! OH&YEAH!!』（10月公演）が全席完売し、他にもバラエティに富んだ作品を提供したものの、昨年の『RENT』『放浪記』といった人気作の公演に及ばず、全体としては減収減益。

演劇事業 - 主要稼働作品 -



2016年9月帝国劇場公演
『DREAM BOYS』



2016年10月～11月帝国劇場公演
『ミス・サイゴン』



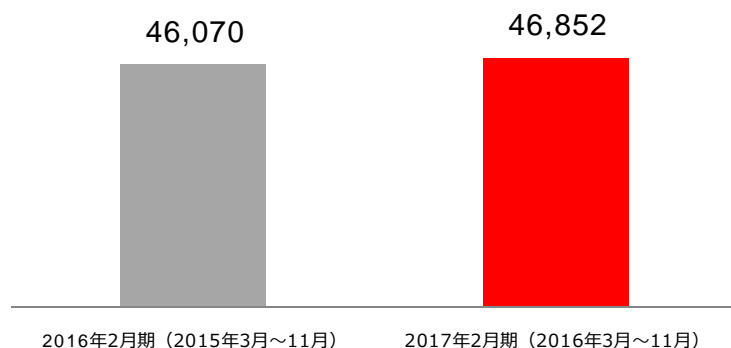
2016年9月シアタークリエ公演
『縁 (えん) ~むかしなじみ~』



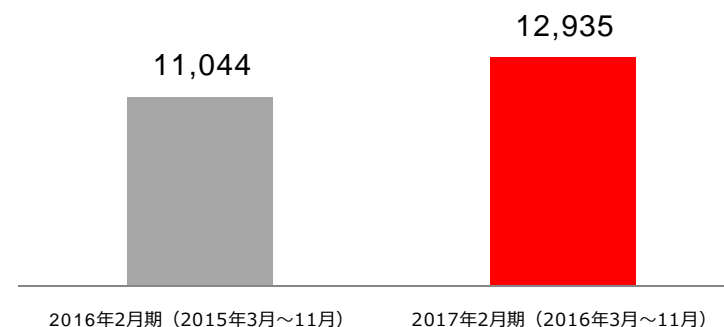
2016年11月シアタークリエ公演
『貴婦人の訪問 THE VISIT』

セグメント別業績【不動産事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析（増減要因）

不動産賃貸事業では、全国に有する賃貸物件が堅調に稼働したほか、2015年4月に開業した「新宿東宝ビル」も業績に貢献し、増収増益。東宝スタジオは、当社配給作品の撮影やTV・CM撮影の誘致によりステージレンタルが順調に稼働。

道路事業では、スバル興業(株)が積極的な営業活動による新規受注に努めるとともに、原価管理の徹底によるコスト削減や業務効率化を行い、増収増益。

不動産保守・管理事業では、(株)東宝サービスセンター、東宝ビル管理(株)が労務費や資材価格の高騰など厳しい経営環境が続く中、コスト削減への取り組みと新規受注の開拓をすすめ、増収増益。

SCREEN & STAGE TOHO LINE UP

映画 & 演劇 話題の待機作品



MOVIE LINE UP



2017年1月28日 (土) ロードショー

子供が巣立ち、2人きりとなった宮本夫婦。ある日、夫は妻が隠していた離婚届を見つけてしまう。そこから始まる、可笑しくも愛おしい夫婦の物語。

『恋妻家宮本』

監督・脚本：遊川和彦
原作：重松清「ファミレス」上下（角川文庫刊）
出演：阿部寛 天海祐希
2017「恋妻家宮本」製作委員会



2017年3月4日 (土) ロードショー

史上最大の危機!?!ドラえもんが、そして全てが、カチコチに凍る!?!
偶然見つけた腕輪（リング）に導かれ、辿り着いたのは、極寒の地<南極>!!
そこで一行を待つ大冒険とは…?

『映画ドラえもん のび太の南極カチコチ大冒険』

原作：藤子・F・不二雄
監督・脚本：高橋敦史
©藤子プロ・小学館・テレビ朝日・シンエイ・ADK 2017



2017年3月18日 (土) ・ 4月22日 (土) 2部作連続ロードショー

親子、兄弟姉妹、友達、師弟。
人と人を結ぶ愛を求めて魂がぶつかり合う、感動のエンタテインメント 2部作!

『3月のライオン 前編・後編』

原作：羽海野チカ「3月のライオン」（白泉社刊・ヤングアニマル連載）
監督：大友啓史
出演：神木隆之介 有村架純 倉科カナ 伊藤英明 豊川悦司
©2017映画「3月のライオン」製作委員会

STAGE LINE UP



2017年2月～3月 帝国劇場公演
『Endless SHOCK』



2017年2月
日生劇場公演
『ビッグ・フィッシュ』



2017年2月～3月
シアタークリエ公演
『クリエ・ミュージカル・
コレクション』



2017年3月～4月
シアタークリエ公演
『キューティ・ブロンド』

業績予想・配当予想

■ 業績予想

(%表示は、通期は対前期増減率)

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円・銭
2017年2月期(予想)	234,000	47,000	48,500	33,000	181.00
前期実績増減率(%)	2.0%	15.4%	14.2%	27.7%	
(ご参考) 2016年2月期実績	229,432	40,710	42,471	25,847	140.22

■ 配当予想

当期の業績は、主力の映画事業が『シン・ゴジラ』『君の名は。』の大ヒットにより伸長していることに加え、演劇事業、不動産事業も堅調に推移し、目標を上回る見通しとなっています。こうした状況を踏まえ、2017年2月期の1株当たりの期末配当金は、当初12.5円を予想しておりましたが、特別配当20円を増額し、32.5円に修正することいたしました。この結果、1株当たりの年間配当金は45円（前期実績30円）となる予定です。

	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年2月期(実績)	—	12.50			
2017年2月期(予想)	—	—	—	32.50	45.00
(ご参考) 2016年2月期実績		12.50		17.50	30.00

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社
総務部 広報・IR室
TEL 03-3591-1303